

予算の概要

<>の数値は、前年度との比較

当初予算の全体像

◆ **一般会計の予算額** 639億70百万円 <▲ 88億90百万円、▲ 12.2%>
 北大阪急行線延伸整備の進展により事業費のピークが過ぎたことなどから、予算額が減少

◆ **全会計の予算額** 1,594億96百万円 <▲ 217億40百万円、▲ 12.0%>
 (特別会計・企業会計を含む)
 競艇事業会計において、SG競走(グランプリ)の非開催年にあたるため、予算規模が縮小

◆ 一般会計の主な歳入の状況

- ・ **国府支出金** 184億01百万円 <▲ 104億88百万円、▲ 36.3%>
 北大阪急行線延伸整備の進展により、事業費に伴う国庫支出金と府支出金が大幅に減少
- ・ **基金繰入金** 20億66百万円 <▲ 4億71百万円、▲ 18.6%>
 箕面市立文化芸術劇場や船場図書館、船場生涯学習センターの整備、環境クリーンセンター基幹改良工事、とどろみの森学園増築工事などに基金を活用
- ・ **市債** 109億36百万円 <+ 7億32百万円、+ 7.2%>
 箕面市立文化芸術劇場や船場図書館、船場生涯学習センターの整備、環境クリーンセンター基幹改良工事、とどろみの森学園増築工事などの財源として市債を発行
- ・ **競艇事業会計繰入金** 10億円 <+ 4億円、+ 66.6%>
 収益向上策の強化などにより、回復しつつある好調な業績を背景に、前年度から4億円増加した10億円の繰入金を見込む
 約8億84百万円を北大阪急行線延伸整備に活用、約46百万円を北大阪急行線延伸にかかる市債の元利償還分に活用、約70百万円を「北大阪急行南北線延伸整備基金」へ積立

◆ 一般会計の主な歳出の状況

- ・ **扶助費** 150億36百万円 <+ 9億54百万円、+ 6.8%>
 幼児教育・保育無償化の通年実施による給付費の増加など
- ・ **普通建設事業費(施設整備工事など)** 196億10百万円 <▲ 103億16百万円、▲ 34.5%>
 箕面市立文化芸術劇場や船場図書館、船場生涯学習センターの整備、水防整備、とどろみの森学園増築工事など
- ・ **人件費** 106億17百万円 <+ 7億82百万円、+ 7.9%>
 臨時職員の会計年度任用職員制度への移行に伴う物件費からの移行分(6.6億円)のほか、退職手当の増加、令和元年度人事院勧告による職員給与費の増加など

収支バランスの状況

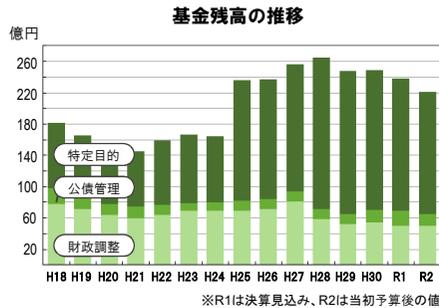
◆ **基金残高(普通会計ベース)** 220億63百万円 <▲ 17億99百万円、▲ 7.5%>

◆ **市債残高(普通会計ベース)**

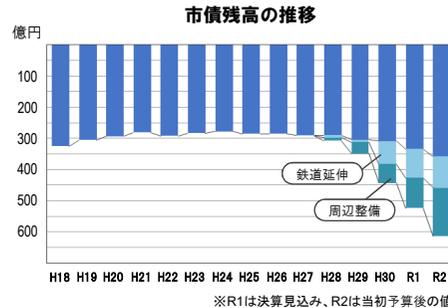
614億52百万円 <+ 91億35百万円、+ 17.5%>

◆ **経常収支比率** 98.0% <+ 0.3ポイント>

「みどり推進基金」や「北大阪急行南北線延伸整備基金」などへの積立を行った一方、箕面市立文化芸術劇場や船場図書館の整備、環境クリーンセンター基幹改良工事などに基金を活用した結果、基金残高は17億99百万円減少した。
 (昨年同様、財政調整基金の取り崩しはしない。)



箕面市立文化芸術劇場や船場図書館の整備、水防整備などにかかる市債を発行した結果、残高は約91億35百万円増加した。なお、臨時財政対策債は限度額まで全額発行せず、10億50百万円の発行に抑えている。



固定資産税の増などにより市税収入が増加したものの、社会保障関係費の増加などにより、昨年度比から0.3ポイント増加した。なお、今回で12年連続の経常黒字(経常収支比率100%以下)の達成となる。

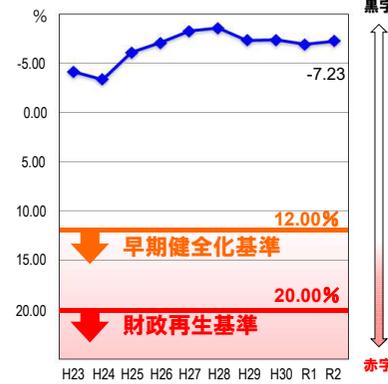


健全化判断比率の状況

令和元年度以前は決算(見込み)、令和2年度は当初予算後の数値による試算。いずれも数値が小さいほど健全。早期健全化基準を超えた団体は、破たん一步手前の状況で、早期に財政の立て直しが必要。(イエローカード) 財政再生基準を超えた団体は、破たん状態とみなされ、国の関与のもと厳しい財政の再建が必要。(レッドカード)

◆ 実質赤字比率

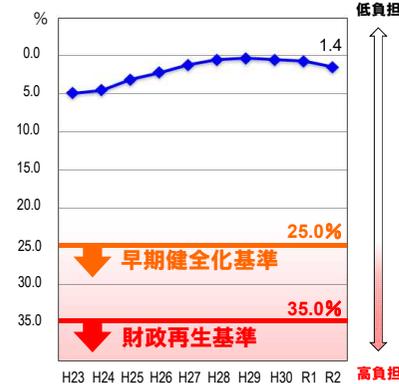
一般会計等の赤字の程度で、財政運営の深刻度を示す。



黒字

◆ 実質公債費比率

一般会計等の市債の返済額などの大きさで、資金繰りの危険度を示す。



堅調

◆ 連結実質赤字比率

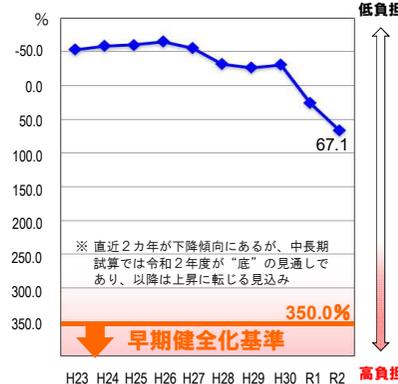
一般会計の他、すべての特別会計、企業会計の赤字や黒字を合算した赤字の程度で、財政運営の深刻度を示す。



黒字

◆ 将来負担比率

一般会計等の市債や将来支払う可能性のある負担などの残高の程度で、将来の財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示す。



低負担